

授賞式

3/6 (日) 13:00 ~ 14:00

どなたでも参加できます!

会場: イオンモールつくば 特設ブース (1F)

目的

2015年に活躍したスポーツパーソンや団体を表彰することで、地域スポーツ関係者に限らず、多くの地域住民にその取り組みをPRし、スポーツコミュニティを活性化させる。
また、競技成績だけでなく地道な活動や手本にすべき活動にもスポットを当て、子どもから高齢者まで、地域住民に夢と希望を与える取り組みを紹介することで、研究、教育に次ぐ「スポーツの街つくば」の構築を目指す。

■主催 NPO 法人アクティブつくば つくば市

2015ノミネート者一覧

No.1 中澤 隆さん
筑波技術大学 保健科学部

パラ
トライアスロン



パラトライアスロン PT5(視覚障害)男子の2015年度世界ランキングで7位となった。2014年度の20位から大きくジャンプアップし、日本人においてはトップの成績である。8月にフィリピンのスービックベイで開催された2015ASTCパラトライアスロンアジア選手権では、PT5(視覚障害)男子で優勝、また、9月にアメリカのシカゴで開催されたITU世界パラトライアスロン選手権グランドファイナルにおいては、PT5(視覚障害)男子で8位入賞という成績を収めた。

No.2 筑波大学 男子柔道部

柔道



国立大学として初めて、体重無差別の団体戦、第64回全日本学生柔道優勝大会において優勝した。これまでに、1974年東京教育大学時代、また1980年筑波大学として準優勝を記録したことがある。国立大学の初優勝は、「限られた環境でも自動努力さえしっかりやれば勝てる」ことを示したとして、学生柔道界の活性化という点でも意義があると称賛されている。

No.3 佐藤 久真莉さん
(CSJ所属 中学1年生)

テニス



アメリカの大会などに参加し、12歳でありながら上のカテゴリーの大会に出場し優勝するなどの好成績を収める。女子テニスプレーヤー。つくば在住。
テニスを始めたきっかけは、5歳の時に、「おじいちゃんとおばあちゃんがやっていて楽しそうだな」と思ったから。試合では、ライジングでコースギリギリに打つのが好き。

将来の夢はプロになって世界一になること。

No.4 糸賀 睦夫 (68歳) さん
(つくば市スポーツ少年団本部長)

普及



昭和51年より、剣道の指導者として活躍し、その後平成5年に至誠会を立ち上げ現在も指導者として精力的に活動。
平成3年つくば市合併により、つくば市スポーツ少年団理事となる。
平成13年に副本部長に就任し、平成21年よりスポーツ少年団本部長として子供たちの健全育成に尽力し現在に至っている。

No.5 筑波大学バドミントン部

バドミントン



今年度、筑波大学バドミントン部はさまざまなステージで大躍進を見た。特に女子は、全日本学生選手権2連覇を含む今季の大学団体戦のタイトルをすべて勝ち取り(4冠)、個人でも加藤美幸・柏原みさ組(いずれも体育専門学群2年)がユニバーシアードで銅メダルを獲得した。また、障がい者部門でも、藤原大輔(体育専門学群4年)がパラバドミントン世界選手権2015に出場し健闘、そして関東学生リーグで2部に甘んじていた男子も、5季ぶりに1部リーグに復帰するなど、今後のさらなる発展が楽しみなチームである。

No.6 雪乃 (平井雪乃) さん

ストリート
ダンス



ストリートダンスチーム「野乃葉 & 雪乃」のメンバーとして、またソロダンサー「雪乃」として様々なコンテストで優勝、入賞を果たす。また、ダンス初心者から上級者まで、すべてのキッズダンサーにダンスの魅力を様々な角度から発信するラジオ番組「TOKYO DANCE PARK」にもゲスト出演を果たすなど、人気実力共に急上昇中で、今後の活躍にも更なる期待が掛かる。その飽くなき向上心で、様々なダンスコンテストやダンスイベントに挑戦し続ける姿勢は、多くのキッズダンサーの模範となるものだ。

No.7 中島 正太さん
(日本ラグビー協会 / ラグビーアナリスト)

ラグビー
アナリスト



筑波大学卒業後(修了後)、セコムラグッツやキャノンイーグルスでアナリストを務める。キャノンスポーツパーク情報分析システムを考案すると、2011年創立以来初のジャパンラグビートップリーグに昇格。
2012年にエディオン・ジョーンズHCが率いる15人制ラグビー日本代表アナリストに就任し、対戦国の情報分析や、PSやドロウンを用いたパフォーマンス分析を活用した。2015年ラグビーW杯では、当時世界ランク3位の南アフリカから逆転勝利をし「史上最大の番狂わせ」と報じられた。同年、五輪競技のラグビー男子セブンス日本代表アナリストに就任する。

No.8 山本 大介さん
(神戸製鋼コベルコスティーラーズ)

ラグビー



兄の影響でつくば秀英高校にてラグビーを始める。高校3年時にはU-19日本代表に選出されアジア大会、世界大会に出場し激しいタックルと正確なキッカーとして知られる。
筑波大学へ進学後も副キャプテンとして活躍を続け、神戸製鋼コベルコスティーラーズ入団後も正確なプレースキック、激しいタックルで1年目から中心選手として活躍しプレースキック日本記録を樹立(当時)2014年12月27日にトップリーガー42人目となる100キャップを達成するなど、つくばにおけるラグビーのレジェンドとして競技発展に大きく貢献した。2016年度より筑波大学大学院に進学。

No.9 関 康平さん
(つくばロープスキッピングクラブ)

縄跳び



小学4年生からなわとび教室に通い、それ以降なわとびに魅了され本格的になわとび競技に挑戦をする。才能はすぐに開花し小学生で世界大会に出場、現在までに数多くのアジア大会・世界大会で優秀な成績を収めている。2015年12月に行われた全日本ロープスキッピング選手権大会では中高生の部で総合優勝し、来年スウェーデンにて行われる世界大会出場を決めた。また現在はアクティブつくばまっちゃんのなわとび教室で講師を務め、未来のスキッパーを育てている。

No.10 小関 優太さん

デフ
ラグビー



筑波大学大学院修了後の24歳で知人の影響で陸上競技・ラグビーを始める。自分の力が結果に直結する個人スポーツの楽しさ、個人的な技術の他に規律や意思統一が必要なチームスポーツの難しさ、そのどちらも味わいたいという2つのスポーツに挑戦している。2015年には聴覚障害者ラグビー(デフラグビー)の選手としてニュージーランド代表とのテストマッチにも出場した。陸上競技では第12回日本聴覚障害者陸上競技選手権大会に出場、やり投げで優勝、円盤投げ3位、砲丸投げ、2位の好成績を収める。続く第8回アジア太平洋ろうあ者競技大会(陸上競技)では、やり投げ2位、円盤投げ4位と健闘した。現在は来年度の6月末に行われる第3回世界ろうあ者陸上競技選手権大会の日本代表候補選手に選出されるなど今後の活躍も期待される。